

50th

令和5年度7月号臨時特別号 [7月20日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



岸川中だより

川口市立岸川中学校
 川口市安行領根岸374番地の1
 TEL268-4506 FAX268-4761
 特別支援学級 TEL268-7110
 さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

7月のこころ 生徒の力は親の力 できる人・できた人

校長 松田 隆幸

私は、毎月の学校だよりを書く際には、前年の同月あたりのこれまでに書いた学校だよりを簡単に読み返す習慣があります。1年前の6月号はR4・5月にあった仙台の中学校の生徒の言葉から、、、。彼らは震災の語り部として、「当たり前感謝」「生きてくても生きることができなかった人たちの分まで生きる」「だから、ウザイ、死ぬ、消えろなんて言葉は使わないし、使える訳がない」と力強く語った、、、。15歳の中学生とは思えない「生きる」を考えさせられるメッセージをもらった。その15歳を育てた親についても考えさせられた。そして、子どもは親の言う通りには育たない。親のやった通りに育つという話で締めであった。

あれから1年。親のやってきた通りに子どもは今も育っているのだと思う。そんな子どもたちにもポストコロナの時代が到来した。以前の状況に戻り、以前の状況を乗り越える時代に突入しました。そこで、新たなシーンが目にとまりました。以前からもありましたが、なぜかその日は新鮮に見えた。生徒が生徒を注意し、戒め、正している。先輩が後輩に対してではなく、同学年であるシーンであった。注意を受けた生徒も素直に従い、改めていたようだ。生徒同士で高め合うこともこれならできると思った次第だった。理想とする学びであると私には見えた瞬間だった。そして、もしかしたら、今の大人社会に欠けてきたところかもしれないとも思ったところだった。大人が子供から学ぶ。親が子供から学ぶこともある。

ある先輩先生から言われた一言があります。『できる人ではなく、できた人になりましょう』と教えてもらった。数学ができる人やスポーツができる人、そしてオール5の人ができる人。でも、チームを組んで、リーダーとして人を束ねることができるのは、できる人とは限らない。人はつい自らをできる人と思い込み、確固たる自信も根拠もないのに、世間から「いいね」を多く付けてくれたから等の薄っぺらな数値を頼りに偉くなったと勘違いをよくする。以前の号にも書いたが、これから求められるのは、情熱だったり、決断力だったり、行動力だったり、コミュニケーション力だったり、、それらと他を思いやる力等がさらに加わり、人はできた人になるのだと思う。

大人がよりよく生きることを、考えているという姿を、是非、子どもたちに見せなくてはならないと思う。大人社会はつい損得を考えがちであるが、学校は、損得を教える場ではなく、善悪を教える場。我が子だけでなく、隣に住む子、地域の子どもたちにも、大人として、奉仕や貢献、施す、寛容に受け入れるといった姿を見せていただきたいところであり、東北の大人は、震災の配給の列に困っている人が並べば、自らの順番を譲った。「みんなのためにいる大人」であることを見せつけて頂きたい。大人は、頑張ることも、楽しむ事も、こうやって正面から向き合っているんだということ子ども達に見せていただき、仙台の子どもたちのように育てていただきたいと願う次第であります。子どもが「できた人」になるのは、その大元が家庭教育にあると確信した1年前でありました。

かくいう私自身が、そもそもいかなものか?、自信が無いのですが、どうしよう?

11月24日は創立50周年記念式典&合唱コンクール

2023 Kishikawa.J.H.S 50th ANNIVERSARY

